

くまばら地区まちづくり通信

Vol.15

2012年1月10日
題字：くまばらさん（桑原）

どこにも負けない福祉マップ作り

11月3日（木）、桑原地区の福祉マップ作りにあたり松山東雲短期大学から避難所となっている桑原中学校までを、まちづくり協議会保健福祉部、松山東雲短期大学の先生方、学生、地域住民の方々と色々なルートに分かれて歩いてみました。

チェック項目として、人や車椅子・ベビーカーが車両と離合できるか、道幅・障害物、坂の傾斜はどうか等、その他気付いた点を地図に書き込みながら歩きました。そしてチェックしたことを持ち帰り、実際に歩いた感想を話し合いました。

話し合いでは活発に意見が出され「傾斜が急な所が多く車椅子で自走するのは大変」「道幅が狭く車椅子・ベビーカーは通れないところがある」「点字ブロックが少なく視覚障がい者の方への配慮が無い」等の問題点もあがり、それらの意見を生かした福祉マップが作れたらと思いました。今回まち歩きをしていただいた皆さま、ありがとうございました。（保健福祉部 中島紀美恵）



福祉マップ作りでも、大学と地域が連携

桑原地区福祉マップ作りにあたり、12月8日に松山東雲短期大学介護福祉専攻の学生たちとまちづくり協議会保健福祉部との意見交換の集いが開かれました。試験的に地域を歩いた学生たちと今井部長らまちづくり協議会のメンバーが意見を述べ合い、今後の作業手順についての調整を図りました。

「福祉の地域力をさぐるアンケート調査」ご協力のお礼



このたび、桑原地区の福祉や介護に関わる地域が持つ力（地域力）を高める方策を探るためのアンケート調査を住民各層にお願いしましたところ、300余通の回答を寄せていただきました。地域の生活課題や福祉・介護についての皆さんの意識など、多方面にわたって調査しました。紙面を借りてお礼申し上げますとともに、今後、集計と分析を加え、まちづくりの基礎資料として活用したいと考えています。ありがとうございました。（松山東雲短期大学 森正康）

今回、まちづくり協議会の皆様と共に桑原校区を中心とした福祉マップ作りに参加し、私たちが日々生活している地区の特徴や問題点など改めて気付いたことも多かったように感じています。

今後も当行は、協議会の理念である「安心して暮らせる町づくり、明るく楽しい町づくり、生きがいのある町づくり」の実現に向け地域の活動に協力するとともに、「ふるさとの発展に役立つ銀行」として地域社会の発展に向けた活動を積極的に行って参ります。（株）愛媛銀行 桑原支店

今年度、まちづくり協議会保健福祉部では、松山東雲短期大学と協働して①福祉アンケート調査、②桑原地区福祉マップ作りを進めています。特にマップ作りでは、まちづくり協議会の安全安心部を始め、他の部の皆様、地域住民による徒歩調査、(株)愛媛銀行、四国交通(株)、舞子タクシー(有)等の企業によるバイク・車両による調査など協力いただいているところです。

今の段階で感じていることは、桑原地区の温かさ、チームワークです。是非、まちづくり通信等を読んでいただき、これからも協力していただけることを発信しますので地域の皆様よろしくお願いたします。

（保健福祉部長 今井典子）

各部からのご報告・お知らせ

「元気な桑原体操」で健康づくり

11月19日土曜日、午前9時より桑原公民館2階ホールで、まちづくり協議会主催 体育活動部・松山市食生活改善推進協議会 桑原支部による「桑原地区健康づくりフェスティバル」を開催いたしました。今年の体育大会でお披露目をしました、桑原体育協会制作の「元気な桑原体操」を皆さんで練習いたしました。日頃の運動に取り入れていただけたらと思います。

運動後は、松山市食生活改善推進協議会 桑原支部の方々が野菜の旨味を生かしたパンチの効いた「ヘルシーカレー」を作ってくださいました。試食会では皆さん汗をかきながら、美味しくいただきました。

たくさんの方々にご参加いただき有難うございました。（体育活動部長 岡進）

桑原の盛り上げ役！ 活性振興部 地道な活動を続けています

★（仮称）獅子舞6町会で連携

定着はしていませんが、一度は集まり話し合う事が出来ました。今後、この会が定着できるよう努力していきたいと思ひます。

★幼、小、青、壮、老年、各層の集団キャンプ
公民館に提案する事すら出来なかったので、確実に進めていきたいと思ひます。

★参画

公民館事業、その他の事業には、積極的に参加出来たので良かったと思ひますが、部員が少なく、部員の増員を目指したいと思ひます。（活性振興部 門田晃良）

教養文化部からのお知らせ

イベント



“らくさぶろう”と新春を笑い飛ばそう!!

毎度おなじみになった、畑寺分館の新春放談会を協賛しています。

愛媛大学落語研究会withらくさぶろうによる新春落語も会を重ねて第8回目を迎えました。家族そろって、又近所の人・友達を誘って初笑いに出かけてみませんか！

日時：1月21日（土曜日）19：00から
場所：畑寺福祉センター2階 ふれあい交流室1

※駐車できる台数に限りがあるので、出来るだけ自転車又は歩いて来てください。



メンバー募集中です！

学校ニュース



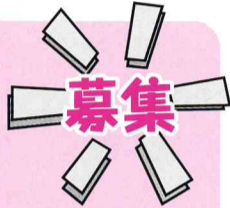
桑原小学校

自分たちが作ったお米でもちつき

12月6日(火)、地域の方々と一緒に2年生全体でおもちつきをしました。子どもたちにとって、初めての体験という子もいて、朝から張り切っていました。つき方や丸め方を丁寧に教わりながら、存分に楽しむことができました。今回使ったもち米は、子どもたちが春に田植え、秋に稲刈りをしたものです。

1年生「みんなだいすき」あそびのひろば

(1月下旬または2月上旬)
冬の自然を生かした遊びや昔からの伝統的な遊びを教えていただける方を募集します。



2年生生活科「行ってみよう」見守り活動

2年生が公共施設(コミュニティーセンター)や交通機関を実際に利用して関わりを持つことを目あてとして活動します。見守りにご協力いただける方を募集します。

日時: 2月1日(水) 8時15分~14時30分
連絡先: PTA事務 戸田 090-5143-0706

アラスカフォトライブを開催しました

11月5日(土)、桑原校区在住の写真家 松本紀生氏をお迎えし、アラスカフォトライブ『オーロラの大地から』を開催しました。当日はあいにくの雨。天候が悪い中、どれくらい集まるのか心配でしたが、スタッフを除き約200名の方々が参加してくださいました。アラスカの自然や動物の様子を、解説をききながら写真とビデオで堪能し、終了後は、じゃんけん大会で盛り上がりました。子どもから大人までの幅広い年齢層で楽しい時間を過ごすことができました。今、松本氏は再びアラスカに渡り、一人でキャンプしながら、撮影をされています。次の作品が楽しみです。会場にきていただいた方々、お世話になった皆様に、心から感謝いたします。



防災訓練報告

避難場所までまとまって……



近い将来来襲する東南海4S連動大地震によって電気・水道・ガス、それに道路を不通にする。その時どうするか。自分の家のすぐ側の一時避難所に集まれたか。ここまでを自主防役員がハンドマイクで情報伝達し、小中学校の避難所は安全か、災害弱者受け入れの愛媛慈恵会は大丈夫か、といった広域の情報交換を新鋭のデジタルトランシーバーで行う、という情報伝達訓練を9月4日に実施しました。

最終会場となった慈恵会と周辺の児童たちによる防災訓練交流、地元松末の皆さんを中心とした災害弱者のリヤカー等での避難訓練と女性部の皆さんの炊き出し訓練、慈恵会職員の配食介護訓練など想定以上のできばえでした。

なお、本訓練の情報機器類の購入は松山市からの補助、桑原地区社会福祉協議会から25万円ほか合計90万円の予算を投入。主会場の慈恵会はじめ多くの方の支援と協力に感謝します。

来年度は、班単位の一時的避難場所づくりと訓練に重点を置きます。
(安全安心部長 河野啓一)

次回の発行は2月10日(予定)です

発行: 桑原地区まちづくり協議会

〒790-0911 松山市桑原2丁目13-16
電話・ファクス 904-1821

ホームページ <http://kuwabaramachikyo.web.fc2.com/>
くまばらさんブログ <http://ameblo.jp/kumabara/>



ブログQR

「煌」(きらめき)

~50kmの先には光がある~

—感動の50kmチャレンジ歩行—10月23日(日)

まだ夜も明けきらない薄闇の中、50kmを最高に、それぞれの目標の距離に向けて、全校生徒が一斉にスタートしました。今年には北条「風和里」を折り返し地点とする新しいコースになり、50km歩行の経験者である2・3年生も新しい挑戦になりました。

事前のコースチェック、看板の設置、当日の安全指導、給水ポイント設置など、PTAやおやじの会、地域のボランティア等160人以上の方々にご協力いただき、86パーセントの生徒達が目標の距離を完歩しました。

生徒達の感想の中には「がんばれの一言だけで完歩できた。励ましの言葉は不思議な力を持っているんだなあと考えた。」「新コースは坂がたくさんあって、すごくつらかったけど、仲間とともに支え合って完歩できた。3年間完歩して自分自身心も体も鍛えることができた。」「海が見えた時の感動が一番心に残っている。足が痛くて、限界を超えていたけど、あきらめず完歩できた。友だちがいたから励まし合うことができた。」など、応援の言葉や仲間の存在の大切さを、改めて感じたようでした。



桑原中学校

淡路ヶ峠桜植樹
2月26日(日)

(予備日は3月4日(日))

行事予定

水を大切に……



環境について考えました

愛媛大学農学部 水資源システム工学 教授 藤原正幸先生に、9月27日11:00~12:00、桑原中学校3年生を対象に、「世界・日本・松山の水環境 一水について考えてみよう」という演題で、ご講演をいただきました。

多くの写真やデータを提示しながら、クイズ形式で話を進めていただいたので、子どもたちは、興味関心を持って、水の問題について考えることができました。

愛大農& 桑原まち協

昨年実施した「地域住民としての心得入門」を今年も実施予定です。愛媛大学農学部新入生に、住民が地域の魅力やルールを教えます。

くまばらさん

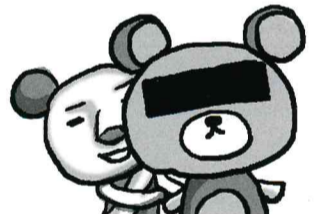


ウサヲ

「あれ、今回は4コマじゃないの?」

くまばらさん

「作者が、出産と子育てと、その上風邪引いてギブアップしたらしいよ」



ウサヲ「そうなんだ。ところで、松山市から石巻市に派遣されている石巻市の自称カリスマ公務員(独身38歳)からくまばらさんに手紙が来ているよ。」

くまばらさん「え?なにになに?『石巻市にきて6ヶ月がたちました。毎日がれき処理の仕事をしているけれど、未だ市内23箇所に瓦礫の山(石巻市のごみ処理能力の106年分)があります。とても大変な状況です(下記につづく)。』

災害処理業務において、非常に頼りになった民間の力添えは、各種ボランティアはもちろんのこと、何よりも「地域のネットワーク」でした。

被災直後は、市役所周辺(=JR石巻駅周辺)を含め、本市の中心的役割を果たす地区が、津波による浸水(水没)により、道路交通網・電力・水道・ネット回線等が全て不通になったため、災害状況の把握や避難手配・消防や警察の出動等、全ての行政運営において、多大な障害となったのです。

そんな中、生存者及び不明者の確認・支援物資の的確な配給・避難所の運営方針決定において、行政職員の入手している情報よりも地域の方々が知る情報の方が、圧倒的に正確かつ迅速に伝わりました。(〇〇さんは独り暮らし、親戚はどこに、△△さん家には小さな子が何人いる、等)

もちろん、これには普段から地域の連携と協力を基本にしたネットワーク作りがあったことです。しかし、このネットワークの有無で、いざという時の対応力に格段の差が出るものなんですね。

桑原地区の皆さんにおかれましても、常日頃から地域の連携を育み、万が一の火災・台風・地震等、「被災時のIF(もし)」に備えた防災シミュレーション等を行っておきますと地域力の大きな向上に繋がることと思いますので、是非ご実践くださいませ。

今後も、東北の地で一刻も早く都市機能の復旧、そして復興に向けて全力で職務にあたる所存です。松山からも東北へのご支援を引き続きお願いいたします。

(石巻市役所災害廃棄物対策課 長岡章雄)